

# 水田たより 12月号

令和4年12月1日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

## 今年度の麦類について

### ■管内の麦類の生育状況

桑名管内では、麦類の播種作業が順調に進んでいます。

いなべ地域では、「あやひかり」の播種は10月末から行われ、11月28日時点で大豆後を残し9割程度完了しています。11月初旬播種の「あやひかり」は、3~4葉期となっており、例年より生育が早くなっています。

桑名地域では11月中旬から「さとのそら」の播種が行われ、11月28日時点で7割程度完了しています。11月中旬播種の「さとのそら」は、1~2葉期となっています。



生育が順調な「あやひかり」のほ場

### ■麦踏みを行いましょう！！

現在、どちらの地域も順調で苗立ちは良好ですが、気象庁の1か月予報が、平年より平均気温が高いと予想されていることから、今後生育が進みすぎ、過繁茂や凍霜害が発生する可能性があります。

そこで麦踏みを行いましょう。麦踏みは過繁茂を抑えて生育をそろえる効果があり、収量増加が見込める技術の1つです。3葉期から節間伸長開始期までに15日から20日間隔で2~3回行ってください。

### ■麦類の施肥管理(つなぎ肥)

つなぎ肥は、分けつが増えることによって発生する肥料切れを防ぎ、生育を促進させる効果があります。4葉期前後に葉色が薄くなってきたら施用しましょう。

11月上旬に播種したほ場では、今後の天候によっては12月中に肥料切れが発生する可能性があります。その場合は、葉色に注意しながら窒素成分で1~2kg/10a程度年内につなぎ肥を行いましょう。

### ■大麦の硝子粒対策(緩効性肥料の場合)

大麦は硝子粒による品質ランクの低下が課題となっています。特に、基肥に緩効性肥料を使用した場合は、2月以降に追肥を行うと硝子粒が増えやすいため、1月末までに追肥を完了させましょう。

## 米の品質向上対策（土づくり）

近年、水稻では登熟期の高温の影響により白未熟粒の発生が多くなっています。特に地力が低下しているほ場で発生が助長されるため、冬期のケイ酸資材の施用による地力維持に取り組みましょう！

### ■ケイ酸の効果

稲がケイ酸を吸収すると、葉身が厚く丈夫になり倒伏が軽減されます。また、葉が直立するため受光態勢が良くなり光合成効率が高まります。下葉や根に十分な炭水化物が補給され、稲全体の活力が維持されます。蒸散が活発になると葉の温度上昇が抑えられます。

籾への養分供給が促進されることで、高温下での乳白米や腹白米の発生抑制に繋がります。

### ■ケイ酸資材の施用

ケイ酸は、前年の稲わらすき込みや灌漑水などから供給されますが、稲の全吸収量には足りません。桑名管内の大半のほ場ではケイ酸が不足している傾向にあり、毎年 50～70kg/10a のケイ酸を補う必要があります。

ケイ酸は幼穂形成期～出穂期に最も多く吸収されますが、土壌から流亡しにくいので、冬期の施用でも効果が期待できます。

## 獣害柵の管理

獣害柵が設置されている地域では、農閑期を利用して地域と連携して柵をチェックし、適切な管理を行って下さい。

### ■除草

獣害柵が雑草に覆われていると柵の破損を見逃してしまい、破損した部分から動物が侵入する可能性があります。柵を覆っていたり、絡みついた雑草はそのままにせず、きれいに除草しましょう。

### ■獣害柵の範囲の確認

獣害柵は4方向を囲うことで効果を発揮します。囲えてない部分があるとそこから侵入するため、農地の周りを囲っているか確認し、今後の柵の設置の参考としてください。

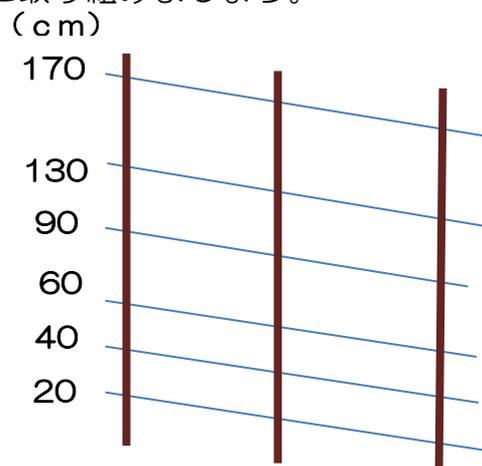
### ■獣害柵の補強

獣害柵の下に竹などで補強を行うことでイノシシの持ち上げを防止し、侵入を防ぎます。また、電気柵を下図のような間隔で 170cm の高さまで張ると鹿の侵入防止の効果が期待できます。

獣害対策は農業だけの問題ではなく、地域の発展や農地の管理につながる大切なものです。地域の人と話し合いを行い、協力して獣害対策に取り組みましょう。



竹で補強したワイヤーメッシュ柵



イノシシ・鹿対策電気柵の電線を張るイメージ図